

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：23201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12200

研究課題名(和文) 看護師の過剰適応尺度の開発と看護師が過剰適応に陥る要因に関する研究

研究課題名(英文) Research on the development of nurses' overabundant adaptation scale and the factors that cause nurses to fall into overabundant adaptation

研究代表者

福森 絢子 (FUKUMORI, AYAKO)

富山県立大学・看護学部・講師

研究者番号：30461354

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：看護師を対象とした過剰適応傾向尺度を開発し、妥当性の高い測定方法確立することが本研究の目的であった。看護師の過剰適応傾向尺度は「評価懸念」「承認欲求」「仕事の責任」「自己抑制」「自信のなさ」「自己犠牲」「援助要請の躊躇」の7因子で構成された。各因子は高い内的整合性がみとめられ因子間相関はすべて正の相関を示した。

水澤の成人用過剰適応尺度を用いた基準関連妥当性の検討では「評価懸念」「承認欲求」「自己犠牲」「援助要請の躊躇」の下位因子は従来の尺度と中程度の関連がみられた。「仕事の責任」「自己抑制」「自信のなさ」の因子は、従来の尺度との相関は低く、看護師の過剰適応傾向尺度独自の因子と考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護師の過剰適応を調査することは、看護師という医療技術と心理的支援の両方が求められる特殊な職業に関して、学術的に新たな知見を得ることができる。また、看護師に特化した過剰適応尺度の開発により、看護師がセルフケアをしやすくなり、内的適応を高め、バーンアウトなどの心身の不健康を予防することができる。さらに、このことで看護師が外的適応だけでなく内的適応を高めることは安定した職業アイデンティティの獲得につながるため、看護の質の向上という社会的な意義をもたらすものでもある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to develop the overabundant adaptation tendency measure for a nurse, and to establish a measuring method with high validity. The nurse's overabundant adaptation tendency measure consisted of seven factors. Those factors are as follows. "evaluation concern", "desire for approval", "responsibility for work", "self-control", "unconfident", "self-sacrifice", "hesitation of an assistance request." Each factor had high inner compatibility. All correlation between factors showed positive correlation. I examined the standard related validity using Mizusawa's overabundant adaptation measure for an adult. "Responsibility for work", "self-control", "unconfident" has the low correlation with the conventional measure. These are considered to be factors original with a nurse's overabundant adaptation tendency measure.

研究分野：基礎看護学

キーワード：過剰適応 離職予防 尺度開発 看護師

1. 研究開始当初の背景

適応には、社会、文化的基準を守り、他人と協調することにより他人から容認され、人間関係のなかで安定を得ようとする「外的適応」と、主観的に自己を受容し、精神内界の安定を得ることによって環境に適合しようとする「内的適応」とがある。

過剰適応はもともと心身医学の領域で使われてきた言葉であり、失感情言語症と並んで心身症症状を呈する人の特徴とされている概念である（小林 1994）。心理学の文献において「過剰適応」という概念を最初に用いたのは北村（1965）である。北村は適応には外的適応と内的適応の 2 つの側面があると述べ、外的適応が内的欲求の満足を犠牲にすることによって得られ、その結果、内的な適応の異常が生ずる場合を「過剰適応」と呼んだ。これは社会的環境への適応行動でありながら、心身の健康に不利をもたらすという意味で「不適切な適応とみなされる」として、「異常な適応」の仕方であると指摘した。

過剰適応者の「競争心に富み、精力的な努力家で、辛抱強く、勤勉、几帳面、責任感がつよい」というパーソナリティ特徴に加えて、対人関係において「本音を出さない」、「No と言えない」などの自分の意思や感情を過度に抑制する傾向などが特徴として知られている（小林他、2002）。これらの特徴は、他者の期待や願望を敏感に感じ取り、それに従うように自分の意思や感情を抑制し、他者に合わせるという適応の状態を示すと推察されている（大嶽 2005）。看護師は、患者からの要望を常に敏感に察知し、ケアを行い、辛抱強く患者やその家族と向き合う行いが求められる。ここに患者からの感謝の言葉が励みとなり、また、きちんと看護ができていくという自己満足を得るために、更なる努力をしまい、看護師は過剰適応に陥りやすいと考えられる。また、潜在的に過剰適応をしている看護師が多いのではないかと推察され、過剰適応によりバーンアウトなどの問題を惹起し、離職へと繋がり易いと推察する。しかし、看護師の過剰適応についてとりあげた研究はみられない。そこで、本研究では、看護師の心理的な問題の要因として過剰適応に注目し、研究を進めた。過剰適応に陥る前に自己の性格特性として過剰適応傾向の程度を確認し、過剰適応についてセルフモニタリングをすることが出来れば、心理的な問題に移行せずに済むのではないかと推察する。

2. 研究の目的

過剰適応の形成要因や個人特性との関連については十分に明らかにされておらず、過剰適応者への援助についての実証的な検討もなされていない。しかし、過剰適応傾向を軽減することが、心理的問題の予防に繋がる可能性が見込まれ、過剰適応は予防的介入を検討するために有効な概念であると言われており、看護師の過剰適応について研究することは、看護師のバーンアウトの予防に有益であると思われる。しかしながら、看護師の過剰適応についての知見はなく、看護師の過剰適応を捉えられると思われる尺度がみあたらない。過剰適応を測定する尺度は桑山の過剰適応尺度（2003）と石津の過剰適応尺度（2006）、水澤の成人用過剰適応傾向尺度（2013）の 3 つがある。桑山は子どもを、石津は青年期前期の者を対

象としており、調査対象の看護師からは外れている。水澤の尺度は成人を対象としているが、特定の職業を対象としていないため、看護師独自の過剰適応傾向がある場合、測定することが出来ないという問題点を含んでいる。

そのため、本研究では、看護師における過剰適応の現状や過剰適応に伴う心理的問題について調査し、看護師を対象にした過剰適応尺度を開発することを目的とした。看護師が自身の過剰適応傾向に気づき、認知的な対応をしていくことで、より自分らしく過ごすことが出来、つまり本来感を保ち、看護師のバーンアウトなどの発症を予防し、離職率の低下やひいては看護の質の向上にも寄与すると考える。

3. 研究の方法

1) 看護師の過剰適応傾向尺度の開発（尺度項目の抽出）

調査は2017年9月に総合病院に勤務する師長主任を含む看護師15名（新人看護師、中堅看護師、ベテラン看護師を含む）を対象に半構成的面接を実施した。面接では水澤（2014）の成人用過剰適応傾向尺度を参考に元にした「強迫性格」「評価懸念」「多大な評価希求」「援助要請への躊躇」に関する質問に加えて「看護師としてのアイデンティティ」「本来感」について尋ねた。広島大学大学院総合科学研究科後期課程に在籍している分析協力者5名の協力を得て、信頼性・厳密性を確保しながらKJ法（川喜多、1976）にて分析を行った。

2) 看護師の過剰適応傾向尺度の開発（信頼性・妥当性の検討）

インターネットを利用したアンケート調査を調査期間は、令和4年7月29日（金）～令和4年8月3日（水）に実施した。調査対象者は、現在就業中の看護師を対象に実施した。20歳代、30歳代、40歳代、50歳代までの各年代につき400名ずつの合計約1600名である。

調査内容は、①看護師用過剰適応傾向尺度（予備尺度）58項目、②成人用過剰適応傾向尺度（OATSAS）（水澤:2013）20項目、③バーンアウト測定尺度（久保、田尾:1992）17項目、④賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度（小島ら:2003）9項目、⑤基本属性（5項目）である。

4. 研究成果

1) 看護師の過剰適応傾向尺度の開発（尺度項目の抽出）

半構造化面接から得られた発言内容に対する分析の結果から1104枚のラベル、7つのカテゴリーが抽出された。「患者からの依頼などを一人で抱え込んで残業することが多い」「頼むと相手に負担が掛かるのではないかと考えて手伝って欲しいと言えない」などの8項目が援助要請への躊躇に抽出された。また、「上司や同僚に見放されないように努力する」「他の看護師に褒めてもらうことをまず考えてしまう」「患者から感謝されると、役に立っていると感じる」などの7項目が評価懸念に抽出された。「患者や家族、医師から理不尽なことを言われても、じっと我慢する」「嫌なことがあっても、患者の前では無理をして笑顔でい

る」「苦手な患者は、感情を押し殺して対応している」などの9項目が自己抑制として抽出された。「より良い看護ができるように常に勉強しなくてはならない」「看護師は、人の役に立たないといけないと思う」「患者の命がかかっているので、完璧に仕事をこなさなければならない」などの16項目が強迫性格として抽出された。「患者のことを自分のことのように置き換えて考えてしまう」「患者や家族との程よい距離を置くことが難しい」などの5項目が巻き込まれとして抽出された。「患者から必要とされないがためだ」「自分の看護を医師や他の医療従事者に認めてもらいたい」などの7項目が多大な評価希求として抽出された。「自分の看護に自信がない」「看護師として本当に役に立っているか、分からない」などの6項目が自己不全感として抽出された。以上の7つのカテゴリーを看護師特有の過剰適応の特徴と捉えた。

2) 看護師の過剰適応傾向尺度の開発（信頼性・妥当性の検討）

(1) 看護師の過剰適応傾向尺度の因子分析（各因子の命名）

看護師の過剰適応傾向尺度は、因子分析（最尤法・プロマックス回転）により7因子がみとめられた。

第I因子は「人に何かを頼むと、自分の評価が下がるのではないかと思う」などから「評価懸念」と命名した。第II因子は「医師や同僚から『仕事ができる人』と思われたい」などから「承認欲求」と命名した。第III因子は「命に関わる仕事のため、手を抜くことは考えられない」などから「仕事の責任」と命名した。第IV因子は「苦手な患者の対応時には、感情をおさえている」などから「自己抑制」と命名した。第V因子は「自分の看護に自信がない」などから「自信のなさ」と名付けた。第VI因子は「看護師を続けるために家族やプライベートを犠牲にしている」などから「自己犠牲」と名付けた。第VII因子は「同僚の看護師に手伝って欲しいと言えない」などから「援助要請の躊躇」と命名した。

各因子のCronbachの α 係数は0.67-0.87と高い内的整合性がみとめられ、因子間相関はすべて正の相関を示した。

(2) 基準関連妥当性の検討

看護師用過剰適応傾向尺度の基準関連妥当性を検討するために、成人用過剰適応尺度（OTASAS）を用いた。看護師の過剰適応傾向尺度の下位因子とOATSASの下位因子は、すべて正の相関を示した。「評価懸念」「承認欲求」「自己犠牲」「援助要請の躊躇」の下位因子は、従来の尺度と中程度の関連がみられ、併存的妥当性が認められた。「仕事の責任」「自己抑制」「自信のなさ」の因子は、従来の尺度との相関は低く、看護師の過剰適応傾向尺度独自の因子と考えられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 3 件)

1. 福森絢子,岩永誠,仕事への過剰適応とストレスに関する研究(1)-過剰適応を規定する要因に関する検討-,中国四国心理学会第 73 回大会,2017 年 11 月,徳島大学.
2. 岩永誠,福森絢子,仕事への過剰適応とストレスに関する研究(2)-過剰適応と個人特性がストレス反応に及ぼす影響-,中国四国心理学会第 73 回大会,2017 年 11 月,徳島大学.
3. 福森絢子,岩永誠,三島瑞穂,看護師の過剰適応傾向尺度の開発(その 1)-尺度項目の抽出-,第 42 回 日本看護科学学会学術集会,2022 年 12 月 4 日,広島.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 福森絢子, 岩永誠
2. 発表標題 仕事への過剰適応とストレスに関する研究(1)-過剰適応を規定する要因に関する検討-
3. 学会等名 中国四国心理学会第73回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩永誠, 福森絢子
2. 発表標題 仕事への過剰適応とストレスに関する研究(2)-過剰適応と個人特性がストレス反応に及ぼす影響-
3. 学会等名 中国四国心理学会第73回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福森絢子, 岩永誠, 三島瑞穂
2. 発表標題 看護師の過剰適応傾向尺度の開発(その1)-尺度項目の抽出-
3. 学会等名 第42回 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩永 誠 (IWANAGA MAKOTO) (40203393)	広島大学・人間社会科学研究科・教授 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	三島 瑞穂 (MISHIMA MIZUHO) (60613099)	宇部フロンティア大学・看護学部・准教授 (35506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関